

## 研修会報告

令和7年1月30日

文責：青山弥生

研修会テーマ「遺伝子検査の知識を深めよう-いま確認したい固形腫瘍の遺伝子検査-」

開催日時 令和7年1月25日（土）13:00～15:10

会場 Zoom ウェビナーを用いた Web 開催

司会 仙台医療センター 佐々木香穂

生涯教育点数 専門教科 20点

参加者 会員参加者 31名 非会員 1名 合計 32名

### 講演 1

13:00～13:30 「固形腫瘍の遺伝子検査総論」

東北大学大学院医学系研究科 病理診断学分野 青山 弥生 技師

### 講演 2

13:30～14:30 「甲状腺癌がんゲノム検査における当院の取り組み」

伊藤病院 診療技術部 臨床検査室 西村 亜美 技師

### 講演 3

14:30～15:10 「がんゲノム医療に対応した体腔液セルブロック作製におけるプレアナリシスについて」 東北大学病院診療技術部 副臨床検査技師長 三浦 弘守 技師

15:15 終了

### 内容

今回のテーマは「遺伝子検査の知識を深めよう-いま確認したい固形腫瘍の遺伝子検査-」であり、Zoom ウェビナーを用いた Web 形式で開催した。

青山技師は、固形腫瘍の遺伝子検査全般に関して、疾患と遺伝子検査の関係、意義、標本作製時の注意について講演した。未染色標本作製する機会が年々増加しており、今一度まとめるいい機会になったのではないかと考える。

西村技師には、甲状腺疾患の専門病院ならではの取り組みを紹介頂いた。

各プロセスでの取り組みとして、医師や看護師と連携をうまくとり病院全体として取り組めることは、病院の規模によるところはあるが、非常に理想的な形であると思う。

また結果のフィードバックをしっかりと行っており、検査が成功しなかった原因と対策をとることは、ぜひ見習うべき点と思う。

三浦技師には、体腔液セルブロックを用いた遺伝子検査の取り組みについて、東北大学病院での実績、経験、取り組みについて講演いただいた。

遺伝子検査において腫瘍含有率がしばしば問題になるが、セルブロック中の腫瘍割合を向上させるため、ポアフィルターを用いて濾過する方法と結果について詳細に紹介していただいた。ルーチン化するには、経験が必要との事であったが、遺伝子検査材料の選択肢を広げる意味でも非常に有用な事と思う。

今回は県内外の病理分野の方に多く参加いただいたが、日常業務に還元できる内容が多かったのではないだろうか。今後も宮城県臨床検査技師会員のために楽しく学べる研修会を開催し、勉強する場を提供したい。